

成果報告書

支援機器等導入実証事業
自立支援機器を活用する就労支援プロジェクト

成果報告書

令和8年3月10日

株式会社東京信友

目 次

I. 事業概要

1. テーマ.....	3
2. 事業概要.....	3
(1) モニター評価チーム.....	3
(2) 製品概要.....	3
(3) モニター評価の概要.....	3

II. 事業報告

1. 背景.....	3
2. 目的.....	3
3. 実施内容.....	4
4. 実施結果.....	4
5. 今後の予定.....	5

I. 事業概要

1. テーマ

腕時計型及び携帯型ワイヤレス装置を活用した聴覚・知的障害者の就労支援の拡大推進

2. 事業概要

(1) モニター評価チーム

- ①支援機器の製造事業者 株式会社東京信友
- ②仲介者 株式会社アクセストレードセンター
- ③一般企業等 株式会社グローアップ

(2) 製品概要

シルウオッチは本来、聴覚障がい者就労支援システム向けに開発された情報伝達ツールです。重要な情報伝達は強力な振動や文字メッセージ((全角 10 文字、半角 20 文字)、光、音の機能を追加したキューブライトで確実に伝える無線通信型デバイスです。

システム構成は、腕時計型送受信機シルウオッチ、送受信機 (PC からの連絡含む)、携帯型光受信機キューブライト、充電器で構成されます。

(3) モニター評価の概要

今回の使用者はジョブコーチ 2 名と軽度知的障害者うつ病、ASD, ADHD, LD, 脳内多動を持つ就労スタッフで 5 名での運用です。

今回認識できたのは、使用者側の心労、ストレスが大きく減ったことと、個別に伝達していたコミュニケーション伝達時間が短くなり負担が相当減ったことと、就労スタッフも周りを気にしないでシルウオッチによるメッセージ受信まで仕事をすることが出来、休憩時間もメッセージ受信まで自分時間を満喫でき、ストレスが減ったことが大きいとの評価を得ました。

II. 事業報告

1. 背景

今まで、聴覚障がい者就労支援システム向けに開発された情報伝達ツールとしての、用途限定の中での普及活動だったために対象者の方への紹介機会が極端に少なかった。今回、奈良県で火災の初期消火用商品を製造している工場が知的障害者雇用を積極的に行っていることを知り、何らかの手助けの手段を築くことができるのではないかとこの観点からトライしました。

2. 目的

今回の新たな知的障害者雇用促進のツールとしての労使双方の負担軽減、特に就労者が少しでも精神的な負担を減らすことが出来れば良いとの会社側からの要望があったので、腕時計型シルウオッチをどのようにすれば雇用者側も負担が減少し、管理者側もどのようなことが楽になるか、メリットがあるかを探りたいと始めた。成功事例が確立できれば他社でも知的障害者雇用を増やす

ことができることを目的にしました。

3. 実施内容

- ①雇用する知的障害者5名に腕時計型双方向シルウオッチを腕につけてもらう。
- ②ジョブコーチ2名もメッセージ発信するために同様につけてもらう。
- ③事務所のPCに各種のメッセージを個人別に発信できるソフトを組み込むことで事務所からも指示を発信できるようにする。
- ④メッセージ送信用端末機も工場内にセットする。(工場は長辺で80mある)
- ⑤気が付かない場合のために、光と音の機能を追加した携帯型受信器キューブライトをセットする。

◎以上のセッティングを行って、一番多用する下記メッセージを定時時間、または必要に応じて各個人のメッセージを自分の腕時計型シルウオッチから発信してコミュニケーションをとることにしました。一番頻度が高いものを登録して使用しています。下記のメッセージです。

- ・トイレ行きます
- ・助けて(動けない時のメッセージ)
- ・外出します(ジョブコーチが出す)
- ・休憩しましょう
- ・閉め作業しましょう
- ・集合してください
- ・リフトお願いします
- ・休憩します
- ・トラブル発生
- ・お客様きました

4. 実施結果

(1)対象者スタッフの変化

- ①回りへの気遣いも減り、トイレなども躊躇することが無くなった。
- ②最近明るくなり、休憩中も話の輪に入ることが増えてきた。
- ③言葉のコミュニケーションも増えてきている。
- ④休憩終了時間も振動で知らせてくれるので、時計とにらめっこが無くなり、気にせずに休憩が出来ている。10分間何も気にしなくてよい有意義な時間と言っている。
- ⑤休憩中に冗談なども言いながら過ごせている。

(2)ジョブコーチが強く感じる仕事に対する有効性について

- ①今までの各種指示に対する反応時間が大きく変化した。
声掛けに対する反応が3秒~20秒が >>今は2~3秒になっている。
- ②過集中になっている人は一度の声掛けでは中々我に返らなかったり、2~3度の声掛けで平均15秒位かかっていたり、肩を叩くなどして回ることもあった。
- ③指示を出してから実行に移すまでの時間的な面と徹底度については近くにおいても3~5倍速くなった。

- ④ 特筆すべき点は、会社の支援者側スタッフの負担が相当変わってきているので双方にとってメリットを痛感している。

5. 今後の予定

今回の事業により、知的障害者の就労支援についても大きな役割を果たすことができるという確信をえたので下記のようなところに対して普及活動をしていきたい。

- ①福祉・就労支援の専門機関＝ハブとなるところへの紹介。

就労移行支援事業所・就労継続支援事業所（A型・B型）においては、双方向シルウオッチを使うことでストレスが少なく就労できるという実績を作りあげる。

- ② 自動車工場・物流・倉庫会社・リネンクリーニングなどの現場作業を持つ会社など騒音や距離が問題になるところや物流・倉庫・食品加工工場・スーパーのバックヤードなどでも力を発揮すると確信。

- ③ 障害者雇用についてアドバイスをしている事業所、各自治体などへの紹介。就労移行支援事業所、東京障害者職業センター、大規模社会福祉法人その他。大型特例子会社や障害者・生活支援センターなどへも動画による利用状況説明、また各地域センターでのセミナー開催、デモ機貸し出しなどを実施して「日常用具として」の普及活動を行う。